

第3回 長野県 ICT 学び推進協議会 議事録

R4. 11. 4

学びの改革支援課

1 日 時

令和4年11月4日（金） 13:30～15:00

2 実施方法

Web 会議による

3 参加者

【信州大学】東原特任教授、島田教授、両川公認心理士

【上田市立第六中学校】藤井校長

【佐久市立野沢中学校】松島校長

【飯田市立鼎中学校】斉藤校長

【須坂市立東中学校】北原教諭

【長野市立朝陽小学校】舞澤教諭

【佐久市立中込中学校】瀬下教諭

【塩尻市立広丘小学校】波場教諭

【千曲市教育委員会】町田様

【須坂市教育委員会】北村様

【長野市教育委員会】中田様

【佐久市教育委員会】菊池様

【松本市教育委員会】小川様

【塩尻市教育委員会】島津様

【飯田市教育委員会】櫻田様

【伊那市教育委員会】足助様

【小海町教育委員会】中島様

【喬木村教育委員会】長坂様

【学びの改革支援課】曾根原課長、臼井義務教育指導係長

【北信教育事務所】清水指導主事

【東信教育事務所】白井指導主事

【中信教育事務所】池田指導主事

【南信教育事務所】保坂指導主事

【総合教育センター】中村専門主事

【DX推進課】永野課長

【長野県自治振興組合】大塚様

【県教委】箕田主任指導主事、松坂指導主事、北島指導主事、畠山主査

4 内 容

(1) 開会挨拶

【曾根原学びの改革支援課長】

- ・都市教育長会議に出席していたが、そこで話題になったのが部活動地域移行、不登校生徒への対応、幼保小中での一貫した学びについて。
- ・長野県の ICT の推進は本協議会がリードして進めていっている。やってない人がいるからといってそこに合わせるのではなく、できることをどんどん突き抜けていって情報発信をし、良さが分かれば、取り組んでいただける先生は増えるのではないと思われる。
- ・自分たちのやっていることをとにかく突き抜けていくことが重要。「出る杭は打たれる」というが出すぎれば打たれないので、そのぐらいになるつもりで取り組んでいただき、県教育委員会にも情報共有をしていただければ、それをまた全県に広めていきたい。

(2) 担当者からの説明・連絡事項

【箕田主任指導主事】

- ・共有データ等のクラウド活用について
- ・GIGA スクール オンライン研修 in 天龍・飯田の実施予定について

【畠山主査】

- ・第2回長野県 GIGA スクール運営支援センター連携会議について案内(本協議会終了後に実施)

(3) 協議(司会: 島田教授)

1) GIGA スクール構想の実現に向けた最新情報

【東原特任教授】

国の動向を三点お伝えしたい。

<高校の情報教育について>

- ・この会議は市町村の小中学校が中心だが高校の話題。高校では情報 I という科目が今年度から本格的に指導要領に基づいて動いているが、大学の共通テストに入ってくると見込んでいる。ところが、正規の情報免許を持った教職員が教えているかが話題となっている。詳しくはここ 1~2 週間のメディア等でも話題になると思われるが、長野県は必ずしも芳しい状況ではない状況。
- ・話題自体は高校のことだが高校に送り込む中学校も色々問われてくる可能性もある。高校ではプログラミングが重視されている。中学校のプログラミングも技術科で今まで以上にやることになっており、小学校でも始まっているが、その成果が表れたのがこの前の全国学力調査。そこで話題になっているのが、算数のテストの結果からプログラミング教育が上手くいっていないのではとなっている。
- ・教育委員会の方々をお願いしたいのが、学力調査の算数のプログラミングの正答率が域内の学校できちんとした点数がとれているか確認いただきたいということ。結構ばらつきがあるのでは。小学校でプログラミングをやらなかったり、あまりよくない成績で中学校に行ったりしてしまうと、その様な子供たちはプログラミングに対しての苦手意識ができてしまいブレーキがかかってしまう。やる機会がなかったからできないだけなのに苦手だと勘違いしてしまうのは大きな障害。小学校の内に、最後の6年生でもいいので是非プログラミング教育を行い、是非自信をもって中学校、その上の高校につなげていっていただきたい。

<GIGA 端末の更新について>

- ・現在困っているのが子供たちに対するアンケートで芳しい答えが出ていないこと。毎日の使用状況が低い。財務省としては国費を入れて整備したものの使用状況が良くなければ、次回国費はだせないという状況。そうなると市町村教委や保護者負担となりかねない。そうならないためにももっと使用率を上げてほしい。

<校務支援システムについて>

- ・現在クラウドツールへの移行が話題となっている。現行の校務支援に関するシステムの多くは専用回線等での接続となっており、どこでも使用できるものではない。また帳票類もバラバラで県、国で統一していく必要があるかもしれない。長野県も共同調達でやっているがそれもクラウド化に対応したものに変わっていく時期なのでは。

2) 現場の先生方より GIGA スクール構想の実現に向けた取組の共有

○2 学期の ICT、クラウドを活用した授業改善について

【上田市立第六中・藤井校長】

- ・教育課程研究協議会が9月に行われ、国語でICTを活用した授業公開を行ったが、授業者は最初ICTを活用していなかったがICTの活用に取り組んでいただいた。例えばJamボードに情報をため込み、いつでも確認できるようなクラウド活用、スライドの共有等を行った。
- ・生徒が主体的に学ぶ姿から追究を続けている。何かきっかけがあるとICT活用にも取り組める。職員の多くが参加し、いい機会だった。

【佐久市立野沢中・松島校長】

- ・佐久地区の学校が集まって研究協議会を行った。本校の担当は美術で、スイートホームを使って3Dの部屋を作り、レイアウトを自分たちで決めるということを行った。
- ・美術というと絵具、クレヨンで行うことが多いが、いろんなことを試すには時間がかかってしまう。もちろん、手で行う感触が大切ということを前提にしつつ、柄を色々工夫して友達と相談し合えるのはいいソフトだった。活用してみたいという先生も多かった。
- ・もう一つはインターグласクラウド。それぞれの考えを示すソフトだが、GoogleのMeetを活用した授業を行った。自分の考えを自分で共有し友達に見てもらい、こうすることでGoogleのソフトを自然と使えるようになる。これもICT支援員が来てくれて教えてくれた。
- ・端末の利活用状況については、半分以上のクラスでタブレットを使っていた。

【飯田市立鼎中・斉藤校長】

- ・タブレットを使った授業が増えており、振り返りの授業で多用している。単元を通した振り返りがあれば個人個人でみられる。
- ・課題に思っているのが、端末を使うことが前提になり、適切に使えていない場面も見られる。ICTの前に協同的な学びをどうプロデュースしていくかが大切と感じている。「協働スタイル」というものを設置し、教員、生徒が認識して授業に取り組んでいる。

【須坂市立東中・北原教諭】

- ・単元内自由進度学習について全教科で授業公開を行っている。個別最適な学びに寄ってきており、ICT、クラウドの活用は必要不可欠になっている。活用状況としてはアウトプットの場面が多い。
- ・県目標「同時共同編集で意見交換ができる」に関連すると、ジグソー法を取り入れ、Jamボードを使用した意見交換に挑戦している。また、遠隔地交流、地域企業とつながって授業展開を行っている。
- ・課題としてはデジタル教科書を使っている中で、教師用と生徒用に違いがあるのは当然だが、その差を先生たちが理解して授業に使用できているかが重要となってくる。

【長野市立朝陽小・舞澤教諭】

- ・クラウド活用について、授業での活用では6年生がクラスルーム、3～5年生がTeamsを使用。いずれも振り返りに使いやすい。
- ・課題としては情報モラル。同時共同編集できるが、トラブルに発展することもあり、情報モラル教育が重要と感じている。

【佐久市立中込中・瀬下教諭】

- ・学校全体では取り組む動きを作れていないが、数学の授業でプログラミングを活用している。小学校の時にプログラミング教育を経験してきたかが大きいですが、使ってきた生徒が多くなっていることは実感している。

- ・全ての生徒が小学校でスクラッチを経験しており、積極的に取り組んでいる。中にはスペシヤルな生徒もあり、独自に発展させていることもある。このような事例をクロームキャストでクラス内で共有している。
- ・ICT 支援員の方が ICT 情報を共有する場を作ってくれており、活用できそうなコンテンツを上げてもらっている。

【塩尻市立広丘小・波場教諭】

- ・社会科の「災害から身を守る」という学習でオンラインで出前授業をしていただいたり、理科の実験で表計算ツールを使って気温の変化をまとめたりしている。これまでロイノートを使用していたが、Google 系のアプリも使えるようになったので活用していきたい。
- ・また、ドローンを動かすことをプログラミングを活用して行っているが、この中で算数で習った角度の考えが役立っている。
- ・いろんなツールを自分が使いやすいように組み合わせて使っていくということをやってきた。学校全体としてはクラウド活用がそこまで進んでいるわけではないが、どの学年にも中心となる先生がおり、共有している。

○2 学期の端末の利用状況、ネットワークの強化、支援員、セキュリティ等について

【千曲市教委・町田様】

- ・授業研究会での ICT 活用、オンライン配信を行っている。また、プログラミング教育は GIGA スクール推進委員によるモデル授業づくりと研究協力校による授業公開、ICT 技術支援員による授業支援を行っている。
- ・このほか、情報モラル、デジタルシティズンシップ教育の推進、市教委点検による管理状況の確認等を行っている（c4th（統合型校務支援システム）での要録管理等）

【須坂市教委・北村様】

- ・北原先生から報告のとおり、自由進度学習については半数の学校で進められている。全国学調の分析を各校で進めている。
- ・先ほど東原先生のお話にあった課題は実感している。期待したよりも少ない数値。各校で当たり前のように使ってもらえる状況を作していきたい。ICT の活用が当たり前になるような授業改善を行っていきたい。

【長野市教委・中田様】

- ・ネットワークの強靱化を 8 月末までに行ったが、学校間で差があるので調査し解消していきたい。
- ・端末の利用については先月、国から端末活用状況調査がきたが、毎日使用は 3～4 割程度、週 3 回の使用は 6～7 割程度で前年よりも増えてはいる。しかし、使っている先生、使っていない先生の差が如実に表れており、使用に関して苦慮している。
- ・情報主任会を開き、情報共有をして、学校・先生間の課題共有をしている。

【佐久市教委・菊池様】

- ・2 学期の中で、職員室の Wi-Fi が整った。また、端末の破損が出てきている。生徒たちが使っていることの裏返しだが、ここでも差がある。
- ・野沢中が Google のフォームを使用した欠席連絡を行っており、電話での連絡がだいぶ減っ

た。

- ・上手く使わねばならないとプレッシャーを感じている先生もいる。安心感を与えるために、初期段階での活用方法を教えている。
- ・先日コロナ関係で4日間学級閉鎖した。困惑する場面があったのでその課題を含めて情報共有し、今後見込まれるコロナ・インフルエンザ同時流行に備えていきたい。

【松本市教委・小川様】

- ・Windows、iPad 両方の活用が進んでいるが、破損も多く昨年度 500 台程度、今年度は 300 台程度でどうしようかと困惑している。
- ・様々な理由で教室に来られない子供たち向けのオンライン授業（生中継）のため、遠隔学習用のマイクスピーカー、三脚セットを用意したところ好評だった。全学校に導入していきたい。

【塩尻市教委・島津様】

- ・毎日の端末利用に関しては長野県平均からだいぶ下回っており、特に中学校で顕著。一部学校では教科担任の許可が必要、毎時間片付けが必要、保管庫にしまっている等々、いつでも使える環境になっていない。文房具の一つとして使ってもらうために意識変えとルール整備を進めていきたい。また、端末以外では大型提示装置等の配置を進めている。
- ・ICT 支援員や私が常駐して、困っている先生たちのサポートを行っている他、情報共有委員会を開き各校の情報共有を行っている。

【飯田市教委・櫻田様】

- ・考えの共有を進めるだけでなく、さらに深い学びにつなげていくために東原先生からご指導いただいている。
- ・デジタルドリルを家庭学習に位置づけ、端末の持ち帰りを進めていきたいと考えており、一つの目標としては冬休みの学習帳をデジタルドリルに置き換えていきたい。
- ・ネットワークは整備したが途切れもあるため、業者に依頼するほか教育委員会でも調査している。ICT 支援員導入についても計画的に準備していきたい。セキュリティポリシーの改訂についても展開していきたい。

【伊那市教委・足助様】

- ・夏期研修会、夏休みの5日間で延べ120名参加。iPadを使ったアプリを使いこなすための先生たちのスキルアップを図った。また、授業支援ツールとしてスクールタクトを使用している。社会見学や学習のまとめ等々も教員主導から子供たちの手に移っていつている。
- ・ICTカンファレンスを11月16日に開催予定。ぜひ興味持たれた方は申し込みを。内容とすると一般社団法人STEAM JAPAN 代表の井上祐巳梨先生を招いて特別講演を行っていただく。伊那市の教職員全員が受ける予定。それに先立ってオンラインにて公開授業も行うので参加していただければありがたい。授業研究会では様々な先生の意見を伺っていきたい。

【小海町教委・中島様】

- ・ICTの活用にかかわる状況のアンケートの中で、「パソコン、タブレット等のICT機器を週3回以上使用」というような設問になっていたが、おそらく子供たちは一人一台与えられた「タブレット」のみを考えていた可能性があるのではないかと推測している。一方、学校側の同じ設問に関しては「100%使用している」という答えが多く、大型提示装置、電子黒板等の使

用も含めて答えているように思われる。

- ・端末の更新費用が国の予算がつかないのではないかという話題があったが、前回5か年計画で交付税措置されたが、次回の更新計画でも交付税措置いただけるとありがたい。
- ・統合型校務支援システムについては、南佐久と下伊那が空白地であるが、来年度から南佐久は導入予定。システムのにもそうだが、自宅でも使えるような規則整備も進めていきたい。

【喬木村教委・長坂様】

- ・職員研修は信大の学びセンターの先生方にいらしていただき行っている。個別最適な学びと協働的な学びを両輪でやっていくことが重要と考えている。効果的な「対話的な学び」のための授業展開計画を策定している。子供たちに任せてやってみるということが重要
- ・ネットワークアセスメント、校内の信号強度を可視化して課題解決に結びつけている。

3) 充実した利活用に向けた取組

○各教育事務所より取組の紹介と教育課程研究協議会における授業実践の様子

【北信教育事務所・清水指導主事】

- ・栄村立栄小学校の取組「単元内自由進度学習における ICT の活用」について紹介。
- ・デジタル教科書を使用して、確認をしながら学習を進め、クラウド上にある友達の学びを参考にすること等を行い、思考を止めることなく追究する姿、自然に協働しながら学ぶ子供の姿につながった。
- ・課題としては、進度が遅れがちな子供が支援を通してどのように自律的に学べるようにしていくか、具体的な評価の仕方について検討していくこと等が挙げられる。地域の方の協力も図りながら単元内自由進度学習をさらに進めていきたい。

【東信教育事務所・白井指導主事】

- ・中学校2年生の英語で「友と意見交換しながら「働くこと」について考え英語で表現する」ということを実践している。
- ・海外で働く6名の方々に「働くこと」についてインタビューし、印象に残った言葉を共有して意見交換、その内容を基に「働くこと」について自分の考えを書いていくというもの。Jam ボードを基に意見交換しており、何度も読むことができる等、英語でのやりとりにつながっていた。

【中信教育事務所・池田指導主事】

- ・安曇野市立豊科東小学校の理科の授業での取り組み。「食塩水の中に食塩があることを実証していく」というもので実験方法を考えていくというもの。
- ・グループで決めた実験方法を撮影し、Google スライドに貼り付け、考えを共有していくことを行った。気になった実験方法について対話を通して考えを深めていくことにつながった。
- ・ICT を活用することで自分のペースで自分に必要な情報を自分の考えと比較しながら確認でき、必要感のある対話が生まれ、自分の考えをより妥当なものにしていくために効果的だった。

【南信教育事務所・保坂指導主事】

- ・辰野町立辰野中学校の社会（公民分野）での取り組みで、「私たちが生きる現代社会の文化の特色」というテーマ。

- ・食と SDG s の視点からフードロス問題をテーマに現代社会や文化の特色をとらえ、対応策や改善策を考えていった。Jam ボード等を活用し、多様な情報を生徒自身が分類・分析し、フードロスへの対応策に新たな課題を見出す学びにつながった。

4) 特別支援教育課【現状の取組について】

【北島指導主事】

- ・インクルーシブ部会、今回は伊那養護学校、上田市立上田第三中学校、安曇野市立三郷小学校、伊那市立高遠中学校の先生に実践について発表してもらう予定。会の中でスプレッドシートを活用した同時共同編集等を行っていく予定。

【両川公認心理士】

- ・「共生社会、私らしさって何だろう」をテーマに中学校で講演会を行った。アンケートをクラウドを利用してとったところ中学生の得意なことは「想像する、よむ、みる、つくる」。一方、苦手なことは「きく、かく」だった。通常の授業のほとんどは「きく、かく」、授業のスタイルを考えていかなくはという話題も出た。

(4) 閉会挨拶

【臼井義務教育指導係長】

- ・本日も様々な取り組み、成果、課題等を教えていただき感謝。端末の活用状況については差が出てきているのはある意味当然かと思うが、この差はできる子がどんどん伸びている結果かとも思う。
- ・教育委員会としては今年度後半は次の一歩が踏み出せない、あるいはちょっと苦しいといったところにしっかりと支援していき、今回教えていただいたような先進的な取組等を紹介していきたいと考えている。